

## 第5回三田市高齢者外出支援のあり方懇話会 会議録

【日 時】令和6年3月19日（火曜日）14時00分～15時20分

【場 所】三田市役所本庁舎3階302会議室A

【委員出席者】9名

大和座長・足立副座長・内布委員・平井委員・今井委員・人見委員・小田桐委員・岡田委員・  
上野委員

【オブザーバー出席者】2名

神姫バス株式会社三田営業所 宮本副所長  
神戸電鉄株式会社鉄道事業本部運輸部 宮井部長

【次 第】

- 1 はじめに
- 2 高齢者運賃助成制度 市民意見交換会について
- 3 高齢者外出支援策に関するあり方懇話会まとめについて
- 4 おわりに

○議事進行

事務局	開会 ・出席者委員確認 ・資料確認 開会に先立ち、三田市健康共生室長よりご挨拶を申し上げます。
健康共生室長	本日はお忙しい中「第5回三田市高齢者外出支援策に関するあり方懇話会」にご出席いただき誠にありがとうございます。昨年7月に第1回懇話会を開催して以来4回開催してまいりました本懇話会は今回が最後となります。この間、各委員の皆様におかれましては、様々なご意見や真剣なご審議をいただきまして誠にありがとうございます。 また、先月23日に開催しました市民意見交換会にも多数ご出席いただきまして、一般の参加者の皆さんからの意見を出しやすくしていただいたり、制度の解説などをしていただきまして、ご協力をいただきました。おかげをもちまして、多くの皆さんから様々な意見をいただくことができました。重ねてお礼申し上げます。 本日の意見交換会の振り返りの後、委員の皆様からこれまでの懇話会でいただきましたご意見並びに意見交換会でいただいたご意見を基にまとめた「高齢者外出支援策に関するあり方懇話会まとめ（案）」につきまして皆様からのご意見をいただきたいと思います。本日もどうぞよろしくお願いいたします。
事務局	それでは次第に従い進行させていただきます。これよりの進行は座長にお願いいたします。

座長	<p>本日はこれまで皆様がくださった意見について、懇話会としてのまとめを作る会となっています。本日の議題は次第の通り「高齢者運賃助成制度市民意見交換会について」「高齢者外出支援策に関するあり方懇話会まとめについて」の2点になります。本日が最後の懇話会となりますので、忌憚のないご意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは次第に沿って、「高齢者運賃助成制度 市民意見交換会について」に関して事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	資料「三田市高齢者運賃助成制度市民意見交換会の一部抜粋」に基づいて説明。
座長	ありがとうございます。市民意見交換会には委員の方もオブザーバーとして参加されたと聞いています。ここで参加された委員の皆様から意見交換会に参加されて感じたことなど、ご意見をお願いしたいと思います。
A 委員	意見の中で市民の考え方の違いが感じられるのは、この制度が単なる高齢者へのお金の補助の制度であるという理解で、支給年齢になるともらえるという市民の権利のような感覚でいるということです。要するに70歳になるともらえるという権利ばかりを主張している方も多く、この制度の根本は高齢者の外出支援のための施策として行っている事業であってそこに注力しているわけです。現行の事業によって出る機会が保たれていないことが課題になっているのに、その点が市民に理解されていないようです。この事業の趣旨を理解しないで、ただ助成制度をやっているからという乖離があるのではないのでしょうか。
B 委員	市民意見交換会で感じたことですが、参加された市民の地域分布はどうなっているのか気になりました。私は高平住まいですが、実情とのギャップがありました。市民意見交換会にすら来られない人たちの意見が本当に反映されたかどうか疑問があります。
C 委員	市民意見交換会の参加者の皆さんは募集要項などの内容をどれくらい理解されて参加されたのか疑問です。もう1点、市民意見交換会ではレジュメで説明されたのですが、我々委員は既に聞いていたので復習になりますが、市民意見交換会で初めて聞く方には限られた時間内ではなかなか理解が難しかったかと思います。そのため2時間という短い時間なので難しいとは思いますが、もう少しわかりやすく説明されてもよかったですのではないかと思います。高い意識を持って参加された方たちのためにも、分かりやすい説明を事務局にもお願いしたいと思います。
D 委員	神戸居住なので三田の交通事情についてあまり知らないまま意見交換会に参加させていただきました。私のグループには色々な地域の方が参加されていたため、全く反対の意見をおっしゃったり、機会の均等か金額の均等か、落としどころが見えない議論もありました。事務局の方にはお伝えしましたが、最初から議論されていた内容を聞いたうえで考えられたら、また違った角度からの意見も出たのではないかと思います。あと1点面白かったのは、年齢で助成を変えるという意見でした。

E 委員	<p>藍地区では3割が田舎で新興住宅街が7割と三田市と構成や交通事情が良く似ております。バスが通っていない旧村に住んでおられる方の不便さと、つつじが丘に住んでおられる方の不便さは状況が全く異なります。両者では高齢者の外出支援の趣旨そのものの位置づけが違うわけで、それを同列で語ることの難しさがあると思います。それぞれの人の事情で考えると何が正しいのか不明瞭なので、それを行政として取りまとめることの難しさがあったかと思います。交通機関は交通政策の根幹となると思うのですが、そこが明確にならないのに助成の話をしてなかなか前に行かないのではないのでしょうか。やはり交通政策のありようといった根本の議論を行ったうえで、助成の話やサポートの話をしないとまとめるのは難しいのではないかということが正直な感想です。予算も何も気にしなくてよいという政策なら問題ないと思いますが、枠がある中でまとめていくのは行政の施策としては難しいのではないのでしょうか。</p>
F 委員	<p>最初、本懇話会は外出支援の懇話会だと思っていましたが、いつの間にか運賃助成だけの懇話会になってしまい、意見交換会の参加者にもそういう意見がありました。バスに関してどういう支援策があるというわけではなく、ただ運賃の助成という話なのかという意見がありました。</p>
座長	<p>市民意見交換会に参加された方たちからご意見をいただきましたが、他にご意見がなければ事務局よりお願いできますか。</p>
事務局	<p>まず市民意見交換会に参加された方のご質問にお答えしたいと思います。参加者の地域性について、地域から1人ずつというわけにはいきませんでした。ニュータウンとそれ以外という区分では概ね半々くらいになっていました。市民意見交換会に参加された方がその方自身の視点でのみ意見を述べられていたという点に関しては、こちらの説明の仕方も併せて反省すべき点です。端的に説明を行ったつもりではありましたが、制度に対する理解が浅いなか、グループワークの中で深めていく方法がうまくいったとは言い難い面もあるので、今後の課題かと思います。外出支援の懇話会ということで本事業を立ち上げていますが、運賃助成制度により公共交通の運賃を助成することで、外出のきっかけにしてもらうことが主旨となりますので、タイトルとしては外出支援となっているのに内容は運賃助成の話というご指摘ですが、運賃助成や公共交通も含めてそれをきっかけにしてそれ以外の楽しみや地域活動といった部分と絡めながら見直しの視点を持っていくよう、市民意見交換会にでも説明させていただきましたが、うまく伝わっていなかった点は反省点です。</p>
事務局	<p>本懇話会の皆さんは今回の制度についてご存じなので運賃助成が外出支援の一環であることはご承知なのですが、最初に市民意見交換会のような形で助成の話をする場合は、ご指摘の通り個人的にどうなるかという視点で考える方が多かった印象です。しかし、市民の皆さんが率直に自身の損得といった意見をしていただいたこと自体が多くの方の市民の方の意見なのではないかと思います。今後、市が施策を行う上で、理解が難しかったのではないかという点もあるので、市と</p>

	<p>してはこういう考えがあるからこのような政策を行うという説明が必要なのではないかと、今回市民意見交換会に参加して感じました。</p>
座長	<p>市民意見交換会に関するご意見をいただきましたが、非常に難しい課題かと思えます。意見交換会をふまえて、次第3「高齢者外出支援策に関するあり方懇話会まとめについて」進めていきたいと思えます。事務局は説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>資料「高齢者外出支援策に関するあり方懇話会まとめ（案）」に基づいて説明。</p>
座長	<p>委員の皆様から何かあればお願いいたします。</p>
A 委員	<p>資料内6. 今後の施策実施にあたっての項は文章で書いてありますが、提携する交通手段が色々ある中、どれを組み合わせるのかイメージできればわかりやすいのですが、文章なので分かりづらいと思えます。この項はそれぞれが一つ一つの施策だと思うのですが、市民に見せるという意味でもイメージとしてあれば見せてほしいです。それと、地域の人材を使ってこういうことをやるという将来像の様なものもあればよいと思えます。</p>
事務局	<p>まず案について補足をさせていただきます。1～8頁(3)までは委員の皆様にとっては復習の内容となっています。最後の「今後の施策実施にあたって」では施策という言葉を使ってはいますが、「高齢者の運賃助成見直しにあたって」というように読み変えていただいた方がいいと思えます。この項では、高齢者の運賃助成見直しにあたり、考慮すべき事項を列挙させていただいております。8頁6項の7点は、懇話会の皆様が今後高齢者の運賃助成を進める行政に対して、忘れてはいけないという視点が網羅されているかどうか確認やご意見をいただければと思えます。</p> <p>また、先ほどA委員よりいただきました、交通政策の将来をどう考えているのか、可視化できるものがあればわかりやすいのではないかとといったご意見や、団体や人材が地域に貢献できる仕組みづくりのビジョンがあればわかりやすいのではないかと、というご意見についてですが、別途策定を進めている「三田市地域公共交通計画」が委員のご指摘にありましたビジョンが描かれた計画となっております。こちらでは将来の交通ネットワークの概念や人材確保の取り組みなどが具体的に描かれており、三田市地域公共交通活性化協議会で協議、策定を進めています。本懇話会もこれと連携していくという位置づけになります。</p> <p>この説明を踏まえて改めてご意見をいただければと思えます。</p> <p>計画は、基本方針が「人がつながる みんなで育てる 持続可能な公共交通」で、誰もが気軽に移動できるまちをめざすというビジョンづくりとなっていて、パブリックコメントで5名の方より62件ご意見をいただき、それをふまえて整理や修正を行い、3月末に完了し、皆様にご覧いただける様な準備を進めています。</p>
A 委員	<p>本懇話会で皆さんが出した意見を地域公共交通計画の中にも入れて将来の交通計画のビジョンを作っただけでないかと思えます。せっかく連携するのだから</p>

	ら盛り込めるものは盛り込んでいただけたらと思います。
副座長	<p>地域公共交通計画の区間の中でどういう地域になるのかは明確にさせていただきたいと思います。そのうえで、本計画の構成でどのようなストーリーを伝えたいのだろうかと思いました。</p> <p>例えば、一方では地域格差が問題となっている中、もう一方では外出移動の充実のため制度を利用したいという意見や、そこから地域によって移動の仕方が違うのではないかという意見がありました。それから見ますと共通していることは、どの地域に居ても身体機能の維持を目指して外出意欲を向上し、外出促進をしていきたいというところが見えます。外出支援にはまったく外出しないパターンと町内から市内へ一定外出をするパターンがあります。「しない」方の支援に関係するならば、マップによって三田市の交通状況を整理するという方法があります。実際に三田市内のバス・タクシー・鉄道などの利用状況が、地域によって違うであろうとなると、三田市内とそれ以外で使い方が違うのではないかと思います。場合によってはタクシーの方が利用しやすいのではないかと、家に居る方が一歩でも外に出る様な交通手段とは何なのか、また町内から市内へ出ていく交通手段は何なのか等々、地域によって違う可能性がある場合に依じて整理させていただきたいと思います。そのうえで、資料内4の高齢者の移動実態について、病院・買い物・愉しみの割合は地域によって違うのではないのでしょうか。一歩も外出しない方を一歩でも外出を促すような外出手段はなんなのか、町内から市内へ、市内から町内への移動手段が違うようならば、整理すべきではないかと思いました。そのうえで、マップをつくり、高齢者の移動実態を地域別と交通手段別でつくり、現行制度の利用状況も地域別、交通手段別で整理し、そのあとで運賃格差の問題に取り掛かることになるかと思っています。そして、現行方法の問題点の解決に向けて利用方法改善と運賃格差解消のために交通運賃助成制度を使おうという流れになるのかと思っています。運賃助成制度については、地域別、交通手段別、助成金の実態を改めて精査し、見直しのポイントについて実現可能なビジョンを記載していただくような、話に一貫性をもたせる必要があります、目的である地域格差を背景とした外出移動の充実を目指した議論を行い、最終的に地域公共交通計画に組み込むことが必要ではないかと思いました。</p>
G 委員	<p>三田市に限りませんが、交通格差がある事実の下に助成制度の見直しがされていなかったため使いやすい形に見直そうということが主旨だったと思います。交通格差はなくなるどころか拡大するであろうことが予測できますが、現在交通不便地域に住んでおられる方が使いやすい施策をとっていくためにどうすればよいかというところも原点であったかと思っています。交通不便地域のバス路線がなくなったり、タクシーを呼んでも来ないなどの現状の中で、資料内8頁6の「現行制度の地域差を踏まえて、地域の利用差が生じないような見直し策を検討する」ということは地域の利用差が必ず生じる上では難しいと思います。次に、持続的な制度に関して日本の人口減少と大都市への人口一極集中が進む中</p>

	<p>で、現在決めたことが持続的な制度になるかという現実の方が早いため、今の中で交通弱者の方に使い勝手の良い制度はどうかという議論になったかと思ひます。</p> <p>対象年齢引き上げや対象者の絞り込みは何を根拠に行うのかということになると難しいのではないかと思ひます。地域格差も交通の便利な場所と不便な場所は必ずありますので、助成制度を使って外出支援をしようにも、支援をしても手段がなくなっている現状では助成制度がいつまで続くのか疑問です。</p>
E 委員	<p>色々な背景がある以上全てをまとめるということは不可能に近いのではないのでしょうか。愉しむための外出支援をどうするかという問題には、車を使わないですむところに遊ぶ場所をつくれればよいのではないかなど、根が深い問題かと思ひます。三田市は高齢化が進んで免許証返納も増えてきたり、今まで車で行けた人が行けなくなった方のことも考えるとますます難しい問題になるでしょう。バスがなくなる等はある程度仕方ない面もありますし、格差をなくすことそのものが、地域格差も絡んで相当難しいと感じます。それを根本的に本来目的から整理して、助成や支援をどうするかという話になると思ひます。先ほどの話にもありましたが、10年経つと三田市も大きく変わります。いい方向に変わるというよりは、例えばウッディタウンではバス停に出ることもままならないことも生じるなど、似たような問題が各所で出てくると思ひるので、議論も難しくなるでしょう。私はつつじヶ丘で活動していますが、散髪へ行くのも困難であることが現実です。意見でいうと防災拠点の話なども出てくると思ひますが、そのあたりの妥協点を見つけてまとめていくべきではないかと思ひています。</p>
C 委員	<p>事務局に質問が1件と意見があります。資料8頁6項は考慮頂きたい事項とありますが、まず「誰が誰に対して考慮いただきたいのか」がお教えいただければと思ひます。次に高齢者の運賃助成に特化するとこういう感じになるのかと思ひます。しかし、もっと根本的な問題があるので、別に解決する必要があるのかと感じます。やはり三田市全体でどうしていくのか、単に持続可能な制度をつくるというだけでなく、やはり大きなプランが必要ではないのでしょうか。プランの中の一つとして交通支援について行っていくという具合に、誰かに対して行うべき事項は何か考えられていると思ひますので、現状であまり大きいことについては言えないのではないかと思ひます。</p>
事務局	<p>誰が誰に対してというところですが、「懇話会から市に対して」運賃助成の見直すにあたって考慮してほしいという内容となります。全体的にそういう視点で書面を整理しています。</p>
委員	<p>懇話会の意見を三田市のどのセクションに言っているのですか。</p>
事務局	<p>事務局になっています交通まちづくり課といきいき高齢者支援課になります。</p>
座長	<p>この懇話会が市に上程する形になるわけですね。まとめるのは大変ですがご意見いただければと思ひます。</p>
A 委員	<p>この事業は交通政策でなく高齢者の福祉の事業になるのですね。</p>

事務局	福祉的側面も大いに持ちながら、かつ移動に係るので交通部局が所管しているというわかりづらい位置づけになっております。全国見渡しても外出支援や運賃助成のような政策は高齢者福祉の予算となります。三田市のように所管が交通であるということはまれな例となっておりますが、三田市の一つの特徴ではないかと考えています。
A 委員	福祉というのは困った方に支援をしていく予算の使い方をしています。その理解をどう求めていくか不明です。公共交通計画を見ても、表に出てきませんし、逆にこれはどういう目立たせ方をするかが問題です。
座長	そういう意味では特徴ある三田市の制度ですが、縦割りを乗り越えて、高齢者全てが福祉の対象となる昨今、福祉課だけでなく交通課が福祉を担っていることは強みだと思います。その強みを市民の皆様はどうやって伝えていくかが大事なポイントだと思います。もしこの点がマイナスになるとしたら残念な話で、縦割りでできていないところを交通の視点から切り込むということはいいポイントだと思いますが、市民の皆さんに通じていないのであれば残念で行政としても考えないといけないと思います。
F 委員	資料 8 頁 6 項に「高齢者の移動実態を踏まえ、市内移動の充実を図るエリア設定をする」とありますが、エリアについてお聞きしたいです。
事務局	ここに記載していますのは、見直しにかかる部分のエリア設定となります。今回ではバスや鉄道では市内移動を充実する、タクシーでは市内の中でも移動が不便な方を支援するという事なので、そのことを意識した文言となっております。
C 委員	資料 8 頁 6 項に「高齢者運賃助成制度が「楽しみ」目的の外出に利用できるよう、地域活動や他の市施策との連携を図る」とありますが、地域活動や他の市施策との連携ということについてあいまいなのではないかと思えます。
事務局	楽しみといいますのは、例えば買い物であるとか芸術鑑賞や人と人のコミュニケーションなどのことです。施策の連携に関して、それぞれの所管が役割を果たす中で、特定するのではなく、色々な市が行っている施策と連携していきたいと思えます。私どもは高齢者の福祉を担当し、生きがいをづくりを行っています。お元気な方と移動が困難な方と両方を受け持っています。そういった面で交通課と連携して行わせていただいておりますが、他の施策でも他部局と連携していければと思えます。
E 委員	つつじが丘から三田市に行くことは地形的にも大変ですし、交通的にも大変で、バスなどの足があればということが実態としてあります。そういう意味で身近なところで楽しめるような活動や行事をする必要があるというのが私の考えです。多くの方が集まって活動するという事に関しては、交通の問題だけでなくもう少し広い範囲で考えなければいけないと思えます。そのところをどう表現するのは難しいと思えますが、実態はそうになっています。
A 委員	過疎地域では高齢者の送迎や買い物・病院のためにコミュニティバスを走らせています。料金は様々で無料のところもありますが、採算がとれるかどうかの検

	<p>討は必要かと思います。バスを2台用意して月水金で巡回させたりするなど、地域での活動についてもそうですが、事業と組み合わせて行政としても注目して取り入れてもよいのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>委員の皆様貴重なご意見をありがとうございました。資料8頁6項の「今後の施策実施にあたって」は細かい意見のまとめとなります。先ほどの議論内ではそこまで大きな修正はないとの認識ですが、学識経験者のご意見もうかがいながら、一部修正させていただくのと、全体構成の調整になりますが、これをたたき台として今回のまとめとさせていただこうと思いますのでよろしくお願いいたします。1年間活発な議論をありがとうございました。懇話会の終了にあたりまして、オブザーバーとして参加していただいた神姫バス様と神戸電鉄様からコメントを頂きたいと思えます。</p>
H オブザーバー	<p>活発な意見をありがとうございました。なかなか答えが出ない地域の問題をとりあげていただいて、我々事業者としても本当にありがたいと思えます。本日コミュニティバスに関するご意見が出たので、神姫バスも兵庫県内でいくつかコミュニティバスを運営していますのでその辺りの事例を紹介させていただきます。コミュニティバスのいいところは基本的に運賃が安いことです。淡路島のコミュニティバスように500円くらいかかるところもありますが、料金に開きが出るのは地域で値段を決められることが原因です。本来バス料金は運輸局に事業者が運賃を届け出るので、コミュニティバスは地域で運賃を決められる点の一ついい点かと思えます。安い料金にできるというのは使いやすくなるという意味でメリットではありますが、黒字にならないところが問題になります。事業者が運営するのですが、事業本体は各自自治体の支援の下コミュニティバスを走らせることになり、三田市は現在バス路線をいくつか走らせていますが、赤字補填をいただいたり、高齢者助成等をいただきながら路線を維持している部分がございますので、路線バスとコミュニティバスの根本は変わるところと変わらないところがございます。</p> <p>車両が小さいということもよく聞きますが、バスが小さくなったからといって維持費はそこまで変わりません。一番の費用は乗務員の人件費で事業費の大体6割から7割くらいです。来月から2024年問題も顕在化してより厳しい状況になりますし、加えて乗務員不足の問題もあります。コミュニティバスをいざ走らせる場合にもバスが1台ですむわけではありません。予備車が必要なので最低2台必要になり、コミュニティバスの本数を増やせば予備車もそれに応じて必要になります。現在の路線があるので、そちらに乗っていただければと思います。時間が合わせにくい等があればダイヤ改正等で対応も可能ですので、皆様が実際に乗って体験したことを教えていただいて、バス路線が完成する面もありますので、今回の様なご意見は貴重なものとなります。</p> <p>それと、ご意見をいただいていた定額料金についてですが、公共交通が安くなったら安くなった分を目的地で買い物を一つ多くしようという具合にしていた</p>



	<p>けたらと思います。バス・タクシー・鉄道はあくまでも交通手段ですから、目的地でお金を使っただいて地域を活性化させるということが第一かと思います。我々はそれをお手伝いする交通事業者なので、今後公共交通を利用する上で考えていただければと思います。</p>
G オブザーバー	<p>本日懇話会に参加させていただいて、地域の皆様が真摯で活発な発言をされていると実感しました。地域それぞれで認識されている問題もそれぞれ差異があることも改めて感じました。地域の皆様がそれぞれのお言葉でご意見を述べられていましたが、全てが即座に解決できるかという、時間と費用の問題もあるため難しいだろうということは皆様感じておられるかと思います。そこを自治体の方々がどうハンドリングして最適解を導き出すかが、三田市職員の皆様の腕の見せ所になると思います。会話を重ねて最適解に近づくとしますので、懇話会は今回が最後とおっしゃっておられましたが、オフィシャルな場でなくとも、地域の方々や三田市の職員、交通事業者が普段から会話をしよるよりよい公共交通機関をつくっていければと思いますので、これからも引き続きよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>東北福祉大学 I 先生メッセージ代読</p> <p>「東北福祉大学の I です。最後の会議に出席できず大変申し訳ありません。あれから懇話会、市民意見交換会に参加させていただき、私にとって様々な学びがありました。お礼申し上げます。ありがとうございました。高齢社会・人口減少社会における持続可能な交通は非常に難しい課題であり、必ずしも解があるわけではない大きな課題です。そのような厄介な課題を解決していくには2つのポイントがあります。1つは皆で考えること、もう1つは取り組めることから失敗を恐れず取り組むことです。あれから懇話会はまさしく皆で考え、まずは高齢者外出支援制度を改善することから取り組み始められたと思います。1年間大変お疲れ様でした。」以上です。</p>
事務局	<p>つづいて本懇話会の副座長を務められた甲南大学の J 先生お願いいたします。</p>
副座長	<p>貴重な機会をありがとうございました。第1回から第5回まで本懇話会が開催されましたが、盛りだくさんな内容でしたがなかなか内容が収束しませんでした。難しい課題である証左だと思います。だからといって難しいと終わるのではなく、ここからどう突き詰めるのかということがスタートラインとなって本懇話会の主旨となったのではないかと思います。本懇話会や計画が「地域公共交通計画」の中でどういう立ち位置になるのか明確にする必要がありますし、「地域公共交通計画」をつくること自体は簡単ですが、三田市は地域格差の問題もありますし、一方で交通と福祉を一緒に考えていることが別格です。本来高齢者の方が外出することが困難な方が多いため公共交通機関が必要であるという状況の中で、福祉の分野だけでは困難なことでも交通がとりまとめ、実際にどう高齢者の方に外出していただくのか、外出していただいた後に町内から市外へどうで</p>

	<p>ていただくのか、といったことがこれまで本懇話会で議論されてきました。しかし、皆さんの生活に落とし込んだ議論ということは思いのほか難しいです。実態を知ろうにも地区ごとに違いますが、本懇話会の議論はそのスタート地点になったと思います。この問題は三田市に限らない問題ですので、三田市はモデル事業となる気概でやっていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>最後に本懇話会の座長を務められた関西学院大学のK先生お願いいたします。</p>
座長	<p>皆様お疲れさまでした。これほど熱の入った会は久しぶりで、市民参画は本当に大事だと実感しました。</p> <p>本懇話会は交通の話だけでなく、運賃助成に特化してはいますがそこから色々派生しています。この場で出来ることは運賃助成の話ですが、これは他の施策と関わっていることなので、まずは本懇話会でできることを提言してそこから先に繋がってってもらわなければならないことがたくさんあります。超高齢化社会で三田市のように旧村や新しい地域が混在している地域では特徴的な問題です。G委員も10年、20年先のことを心配されておられましたが、おっしゃる通りで、今決めたことが10年後20年後も通用するとは限りません。そのためこういう話は継続して検討する必要があります。本懇話会は現時点での最適解を皆で探り、継続するうちに状況も変化するので、その時々で最適解を探るほかないという状況が、今私たちが置かれている状況となります。将来を悲観するのではなく、今何ができるかというところから始めるべきだと思います。</p> <p>私は高齢者福祉が専門なので、高齢者の生きがいや社会参画が重要だと考えています。そのために、交通が役に立つ、つまり外出しやすい所に運賃助成を行うことで負担が軽くなり外出しようという気運に繋がればよいと思います。ですから、高齢者の生活支援という意味で交通課が運賃助成を考えているということは、私自身は大事なことだと思っています。先ほどの話にもありましたが、福祉と交通が組んでいると思います。その中に色々な要素があり、その一つとして高齢者の交通の話という重要なポイントになっていて、これも福祉の重要な課題でありますから連携して考えることは素晴らしい事だと思います。</p> <p>副座長の話にもありましたが、この話は三田市に限ったことではなく、人口減少で過疎化しているところが多々あり同じ課題を抱えているところは多々あります。超高齢化と外出という課題に三田市がどう対応するのかということは注目されている部分だと思うので、せっかく福祉と交通がタッグを組んで行っているのであれば、きめ細かい高齢者に対する施策を期待したいと思います。</p> <p>まとめに関しては、多くの意見をいただいたので、ポイントを絞って格差是正と今まで使えていなかったことをより使えるようにするという具合に焦点を絞ってまとめをつくらよいかと思います。</p> <p>私もこれまで勉強させていただきました、こんな活発な市民がおられる三田市は素晴らしいと思います。どうもありがとうございました。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。最後に確認事項のご案内をさせていただきます。今回</p>

	<p>の議事録に関しましてはメールないし郵送で送らせていただきます。本懇話会のまとめについては、まとめ次第皆様にご連絡を差し上げますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>スケジュールについて説明をさせていただきます。これまでいただいたご意見を基にした見直し案を来年度前半に考えています。見直し後の制度については令和7年度の運用を視野に入れていきます。</p> <p>閉会にあたりまして都市政策室参事兼交通まちづくり課長の高寺よりご挨拶を申し上げます。</p>
都市政策室参事兼 交通まちづくり課 長	<p>改めまして皆様お疲れさまでした。K先生、J先生はじめ、皆様本日までお忙しい中ご参集いただきまして、貴重なご意見をいただきありがとうございます。本日もお聞かせいただいた通りではありますが、意見交換会の感想や懇話会のまとめに関してもそうですが、それぞれ利己的なものではなく、行政サービスとしての難しさや、市民理解を得るための難しさや課題といった認識でご意見をいただけたことは、本当に素晴らしいメンバーにご縁をいただけたと感謝しております。</p> <p>高齢者の方の移動や暮らしを取り巻く状況は事業だけでは成り立ちません。家族や地域の皆様の共助、行政の公助をもって、更に多様な人々が様々な形で関わってはじめて暮らしやすい日常が成り立つと思っています。我々行政も自助・公助・共助の中でそれぞれが果たさなければならない役割は何なのかを自問しながら政策にあたりたいと思います。市の推進する施策はともすれば我々の中だけで議論が完結して決まったことのみを皆様にお伝えしてサービスをご利用いただくという形になりかねません。今回のように皆様のご意見を聞く機会をいただいて、一緒にやった方が効果的ではないか、あるいはここにもっと力を入れようといった、地域とのつながりを持った制度づくりにつながると実感したところがございます。様々な制約がある中で、出来ることは限定的にならざるを得ない部分もありますが、懇話会でいただいたご意見を生かして、運賃助成のみならず福祉や交通、様々な施策でも生かせるように努めてまいりたいと思っております。先生方にもコメントいただきましたように、縦割りでない交通と福祉の連携の新たなモデルとして皆様にご関心を持っていただけるよう努めてまいります。今後も皆様もご関心をもって市政参加いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。ここまで本当にお疲れさまでした。</p>
事務局	<p>以上をもちまして、第5回高齢者外出支援のあり方懇話会を終了いたします。皆様1年間ありがとうございました。</p>